

新生児から3歳児の保育に関する 教員養成 および支援体制の構築

第16回国際教育協力日本フォーラム 2019年
発表者
クリスティン・チェン

1

- 1980年代に、シンガポールでは好景気となり女性の労働力が必要になったため、幼児保育の教員養成が緊急に必要なになった。
- 毎週のように保育園が開園された時期もある。
- これらの保育園は、月曜日から金曜日まで、朝の7時から夕方7時まで、2歳から6歳までの子どもたちを受け入れる。土曜日も半日受け入れるところもある。

2

- 1990年代後半には、シンガポールでベビーブームが起き、新生児から3歳児までの保育の需要が高まった。
- 乳児院が多く開かれ、専門の乳幼児教員免許(CIT)が必要となった。
- 2歳から6歳までの子どもたちと乳児は違うことから、2歳から6歳の子どもたちを教える免許を持っている教員は、CITの取得も必要となった。

3

支援体制の構築

- 免許センター
- 教員の資格と教員養成
- カリキュラムの枠組み
- 乳児院の認定

4

カリキュラムの枠組み

- 最初に、4歳から6歳までの幼児保育枠組みが作られた。
- 新生児から3歳児までの乳幼児期発達枠組み。

5

認定枠組み

- シンガポール認定枠組み(SPARK)
- 4歳児から6歳児のプログラムのためのSPARKは2017年に改訂された。最初の認定授与式は2011年9月12日。
- 新生児から3歳児のプログラムのためのSPARKは2018年に導入された。

6

新生児から3歳児までの教員養成

2018年アルゼンチンで「幼年期発達のための G20 イニシアティブ」が開始。誕生から最初の1,000日の重要性を強調した。この地域の数力国が、この年齢の子どもたちを対象とした保育と教員養成に関心を示している。

7

新生児から3歳児までの教員養成

この年齢層の子どもたちはどうか。どのように子どもたちは学ぶか。

先が予想できない世界に教員や子どもたちが対応できるようにするには、どうすればよいか。

8

この年齢層の子どもたちはどうか
どのように子どもたちは学ぶか

次の短いビデオは、はいはいの段階の子どもが、ボール遊びを学ぶ様子を示している。

粗大運動技術が発達する中で、子どもの学習の機会は異なった形をとる。

9



10



11



12

子どもについてわかっていること

- 子どもの発達には切れ目なく連続している。
- 応答する大人の気配りや存在が非常に重要。
- 異なった発達段階に合わせた題材が、学習の世界を開く。
- 練習の機会が不可欠。

13

先が予想できない世界に教員や子どもたちが対応できるようにするには、どうすればよいか

新生児から3歳児までの教員養成にあたり、教員は子どもたちがいかに学ぶかを知り、子どもに応答し、機会を作り、学んだことを練習できる時間を子どもに与えることが必要である。

予想できない世界についてはどうか。

14

予想できない未来の世界

この世界に生まれてくる子どもたちのことを考えよう。子どもたちはこの世界について何を期待し、何を予想したらよいかを知らずに生まれてくる。そういう中、子どもたちはどうするか。

彼らは恐れずに思い切って踏み出し、試し、実験し、発見し、解決策にたどり着く。

15

工夫して音楽を作る子ども

次の2つのビデオは、子どもが非常に幼いときからドラムをたたいて音楽を作り始める様子を示している。

彼はより成長したとき、様々な材料を使って音楽を作りたい気持ちに動かされて、様々な材料でどのような音楽ができるかを工夫するようになった。

16



教訓

予想できない世界にどうすれば対応できるか。子どもを観察し、子どもから学ぼう。新生児から3歳児までの教員にとって、観察力は非常に重要である。

19

ビジョン

子どもたちが
様々な年齢層の子どもたちと交わり
途切れることなく発達し続けられる場所

20

